

超高解像度デジタルデータを使って、新しい鑑賞体験を！

# MoCoSS

Motion Control Scanning System for Ultra High Resolution Camera

## 超高解像度自動撮影システム



### 独自のプログラミング制御による新システムを構築

国内外の美術館でデジタル化が進んでいます。所蔵品を超高解像度のデジタル写真（静止画）として撮影することで、絵画の色合いだけでなく、微細な筆致などを精緻に記録することができます。これにより、絵画のデータを拡大しても画質があれることなく確認できるほか、絵具の凹凸なども記録できるため、高精細大画面による「絵画の中に入り込む」展示や、3Dプリンターを活用した「触れる絵画」展示など、美術作品の新たな体験も可能となります。この分野は、学術的なアーカイブはもちろん、新しい展示手法として美術館などの関心も高まっています。

美術作品の高精細撮影は、従来は大型の専用機を使ってスキャンする方法で行われてきました。この度、NHKエンタープライズでは、超高解像度カメラをモーションコントロールと組み合わせ、独自のプログラミングで制御することで、従来の手法を上回る利便性の高いシステムの構築を実現しました。

また、独自に開発した回転台をつかって、絵画などの平面作品だけでなく、彫刻や陶器などの立体作品も撮影することが可能です。

# MoCoSS ③つの特徴



超高解像度カメラ  
PHASEONE社  
iXH 150MP

## ① 超高解像度画質で撮影ができる

美術品撮影に特化した最先端のカメラにより、1ショットあたり(約5センチ四方)1.5億ピクセルの超画質で撮影することができます。

## ② 安全に美術品を撮影できる

独自開発のフレーム一体型システムにより、美術品に過剰に接近することなく、安全に撮影することができます。

## ③ 撮影時間が短縮できる

フレームに一体化されたカメラは、オリジナルのモーションコントロールシステムにより自動制御されています。これにより撮影時間が短縮できます。



プログラミングによるモーションコントロール

**MoCoSSは、大英博物館が考案し、世界の企業や団体も採用する画像アーカイブの取り扱い基準\*に準拠しています。**

\* CHARISMA project (Cultural Heritage Advanced Research Infrastructures: Synergy for a Multidisciplinary Approach to Conservation/Restoration)

## MoCoSSのデータを活用して、多彩な展示演出を、提案します。

### 01 体感型空間映像コンテンツ

MoCoSSで撮影したデータは、大型の映像投影でも高画質を保ちます。プロジェクションマッピングをはじめ、壁面や天井、床面など、空間全体を映像で覆いつくすような没入感のある映像体験をつくることができます。

### 02 VR、MR、XRなどへの展開

VRやMRなどXRによる新しい美術鑑賞スタイルの企画に活用できます。絵画の中に入り込む体験や、自由視点で回り込むなど超高精細なデータだからできる様々な体験を作り出せます。

### 03 触れる立体絵画

MoCoSSで撮影したデータから3Dプリンターにアウトプットすることができます。元データが超高精細であるため、絵具の凹凸や筆致も立体的に再現することができ、指先で触れる美術鑑賞が可能です。

### 04 UX展示

美術館や博物館の館内のモニターや投影画面を使い、タッチパネルやセンサーにより美術作品を自在に様々な角度から動かしながら鑑賞する体験展示にも活用できます。

### 05 教育用コンテンツ

撮影された内容は、デジタルデータで記録されているため、色彩や構図など様々な観点から作品の成り立ちを学ぶ材料として活かすことができます。名画を自分でなぞってみたり、模写の教材としても活用できます。